

長久手市地域公共交通会議

平成20年11月25日設置
フィーダー系統 平成26年6月NW計画策定

①協議会が目指す方向性(Plan)

1. 地域公共交通の確保維持について、協議会で設定されているエリアの地域特性

本市は名古屋市の東側に位置し、人口は増加を続けている。通勤通学流動の面では名古屋市との結びつきが強く、市内の公共交通網は、軌道系のリニモと民間の路線バスが市内の東西方向の移動基軸として、名古屋市内を始めとする市外への移動にも対応した路線網となっており、市営のコミュニティバス(N-バス)が、市内を面的にカバーする路線網を形成している。

公共交通の利用者数は、近年は増加傾向にあるものの、人口増加が続く中では、自家用車に過度に依存せず、利便性の高い公共交通サービスの提供が課題となっており、現在、市内では大規模な集客施設や住宅地の立地を予定する面整備が進行していることから、それらに対応した交通計画が必要となり、平成21年10月に策定した地域公共交通総合連携計画を見直し、平成26年6月に第2次地域公共交通総合連携計画を策定した。

2. 第2次地域公共交通総合連携計画の目標及び期間

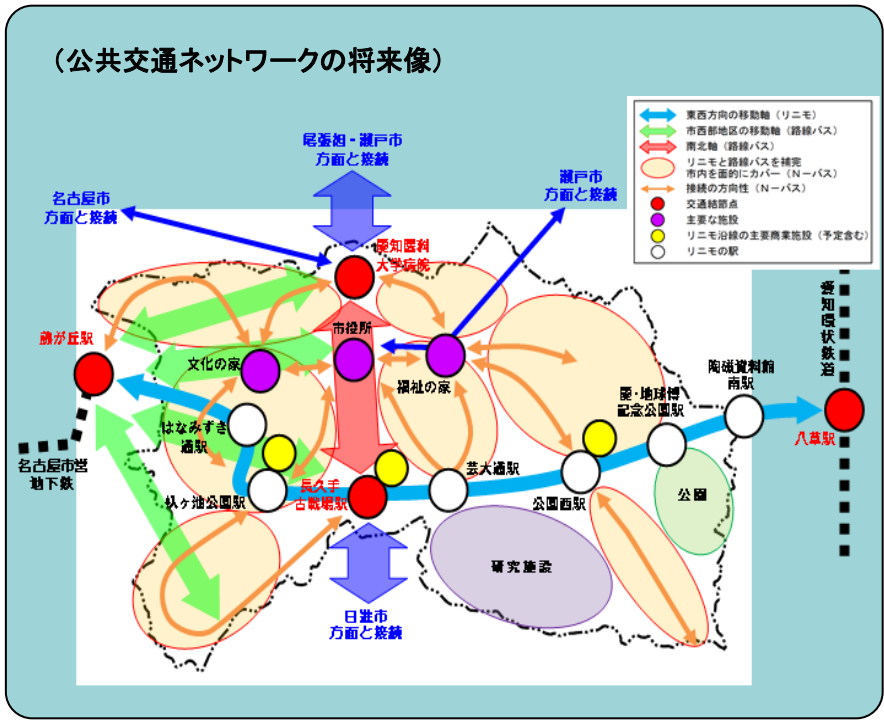
笑顔があふれ、人にやさしい、そして、まちにやさしい公共交通をつくりみんなでつなげる公共交通の将来像の実現に向けて、将来像のキーワードから以下の3つの目標を定めた。

- (1) 目標
 - ①「みんなで育む公共交通のまち」の実現
 - ②「人にやさしい公共交通のまち」の実現
 - ③「環境にやさしい公共交通のまち」の実現

これら3つの目標の実現に向けて、路線体系や利用意識の充実、移動の利便性や住みやすい環境が確保に取り組むことにより、市民に笑顔をつくり、公共交通の将来像として掲げた「みんながつながり、笑顔があふれる公共交通」の実現に資するものとなる。
- (2) 計画期間:平成26年度～平成30年度の5年間

3. 地域公共交通に関する他計画や地域公共交通政策以外の関連施策との整合性

第2次地域公共交通総合連携計画は、第5次長久手市総合計画で定めたまちづくりの基本理念や都市計画マスタープラン、で示すまちづくりの基本目標などと整合を図った本市の総合的な指針を踏まえた計画となっている。具体的には、リニモを中心としたまちづくりを進める本市では、公共交通に関しても、リニモを基軸とした公共交通ネットワークの構築、交通結節点の整備等を行う。



②地域公共交通に関する具体的取り組み及びそのプロセス(Do)

【平成25年度の取り組み】

○ 主な実施事業

(1)バス路線の確保・維持

・市民の移動の足としてNーバスの運行を確実にいき、かつ継続していくため、生活交通ネットワーク計画を策定し、計画通りに運行することでバス路線の確保・維持に取り組んだ。

(2)地域公共交通総合連携計画の見直し

・地域公共交通調査事業の実施による市民のニーズの把握
この事業では、市民4,000人を無作為に抽出して住民アンケート調査を実施し、公共交通に関するニーズを把握した上で、連携計画の取り組み課題、公共交通機関ごとの課題、各種整備計画等との連携や、高齢化に備えた対応などの視点を変えて課題を整理した。

・住民アンケート結果等を踏まえて、新たに将来像、目標、基本方針、計画事業等を整理して、「第2次地域公共交通総合連携計画」を策定に取り組んだ。第2次地域公共交通総合連携計画では、市民、行政、交通事業者の連携、まちづくりとの連携により、みんなで交通を育むことを目標とした。

(3)利用環境改善促進等事業の実施

バスの利便性改善の取組として、名鉄バス(株)が主体となって、名鉄バスの名古屋営業所管内とNーバスにバスロケーションシステムの導入を行い、平成26年3月1日から、運用を開始した。

(4)市民との協働事業

①周知・広報活動としての「かわら版」の作成

長久手市の公共交通について、市民に周知を行うために市民、利用者目線の広報資料として、「かわら版」を作成した。「かわら版」の作成は、平成24年度からの取り組みを継続し、2名の市民協力者の方に作成の協力をいただき、第2号と第3号の合計2回の発行を行った。

【平成26年度の取り組み】

平成26年度はこれまでの地域公共交通の維持確保の取組だけでなく、「みんなで育む公共交通」の実現に向けて、公共交通に対する市民の意識を高めるため、市民との協働事業にも取り組んだ。

○ 主な実施事業

(1)バス路線の確保・維持

市民の移動の足としてNーバスの運行を確実にいき、かつ継続していくため、生活交通ネットワーク計画を策定し、計画通りに運行することでバス路線の確保、維持に取り組んだ。またリニモ沿線を始めとする開発や新たな交通結節点の整備などの都市構造の変化や移動ニーズに対応した公共交通ネットワークを構築し、運行サービスの向上を図るため、路線再編の取組を開始した。

(2)地域公共交通総合連携計画策定

平成26年6月に「第2次地域公共交通総合連携計画」を策定し、「みんなで育む公共交通」の実現に向けた取組を始めた。

(3)市民との協働事業

①周知・広報活動としての「かわら版」の作成

長久手市の公共交通について、市民に周知を行うために市民、利用者目線の広報資料として、引き続き「かわら版」を作成した。2名の市民協力者の方に作成の協力をいただき、第4号を発行し、現在第5号を作成している。

②公共交通シンポジウムの開催

第2次地域公共交通総合連携計画を踏まえ、「これからの公共交通はみんなで育む」という意識の醸成と、今後の取り組みへの参加を促すため、本市で初めての取り組みとして開催する。

③Nーバスの路線再編における市民ワークショップの開催

「みんなで公共交通を育む」という第2次地域公共交通総合連携計画での方向性を踏まえて、計画段階から市民とともに検討していくため、市民参加の方法としてワークショップを立ち上げた。

③地域公共交通に関する具体的取り組みに対する評価(Check)

【第1次の連携計画の目標達成度】

- 公共交通利用者数の目標は、リニモとNーバスは前年度から引き続き増加傾向で推移して達成しており、名鉄バスは未達成となっているものの、利用者数は前年度と比べて増加している。市全体の合計利用者数は、目標を達成している。
- 公共交通の推進度は、前年度に続いて未達成となった。

目 標		現状:H20実績	目標値	平成23年度実績	平成25年度実績	平成25年度評価	
指標1	公共交通利用者数	リニモ	約16,500人/日平均	H20の10%アップ	約18,500人/日平均	約19,800人/日平均	達成 (20.0%アップ)
		名鉄バス	2,240人/日	H20の10%アップ	2,111人/日	1,938人/日	未達成 (0.8%ダウン)
		Nーバス	約450人/日平均	H20の10%アップ	約530人/日平均	約600人/日平均	達成 (33.3%アップ)
		合計	約19,190人/日平均	H20の10%アップ	約21,241人/日平均	約22,622人/日平均	達成 (17.9%アップ)
指標2	公共交通の推進度	「進んでいない」との回答割合:28.1%	25%未満	29.5%	31.1%	未達成	
指標3	公共交通転換者	—	調査段階ごとで増加	公共交通利用機会 増えた:13.9% 減った:14.4% 増えたー減った:-0.5%	公共交通利用機会 増えた:14.9% 減った:15.2% 増えたー減った:-0.3%	達成	

【事業の評価】

- リニモ、Nーバスの利用者数は引き続き増加傾向で推移し、「愛・地球博」以降で過去最高を記録している。
- 名鉄バスについては、数値が減少してるが、市町村をまたぐ路線であるため、市内の年間利用者数の算出が困難である。この数値は、年1回の利用者調査における、その日1日の市内バス停利用者数であるため、実績の比較が難しい状況であった。なお、市内で運行する路線の利用者数については、全体では増加してる。また、平成26年4月には新路線も開設された。
- 利用者の増加傾向に満足することなく、公共交通の推進度の向上などの課題への対応を図るため、新たに第2次地域公共交通総合連携計画を策定し、これまでの地域公共交通の確保・維持、移動利便性の向上の取組に加え、「みんなで育む公共交通」の実現に向けて、公共交通に対する市民の意識を高めるため、市民との協働事業にも取組んだ。

④自己評価から得られた課題とその対応(Action)

公共交通の利用者数は、近年は増加傾向にあるものの、人口増加が続く本市では、自家用車に過度に依存せず、利便性の高い公共交通サービスの提供が課題となっている。第2次地域公共交通総合連携計画では、リニモ、名鉄バスを中心に東西の移動軸を形成し、Nーバスが市内を面的にカバーすることで市内の公共交通ネットワークを構築を目指す。また、これまでは、南北の移動軸がなかったため、リニモ長久手古戦場駅、愛知医大学を新たな交通結節点として、これをつなぐネットワークの充実させることで、新たな南北の移動軸を形成する。また、市民の移動の足としてNーバスの運行を確実にいき、かつ継続していくため、生活交通ネットワーク計画を策定し、計画通りに運行することで、今後もバス路線の確保・維持に取組む。

これらの具体的な取組として現在、リニモ沿線を始めとする開発や新たな交通結節点の整備などの都市構造の変化や移動ニーズに対応した公共交通ネットワークを構築し、運行サービスの向上を図るため、Nーバス路線再編の取組を開始した。

また、公共交通の推進度に関しては、目標を達成していない状況であった。この目標を達成するためには、どのようにして公共交通に関する取組を市民に周知・広報していくかが課題の一つであると考え。そのため、第2次地域公共交通総合連携計画では「みんなで育む公共交通」の実現に向けて、地域公共交通の確保・維持、移動利便性向上の取組に加え、「みんなで育む公共交通」の実現に向けて、市民との協働事業にも取組み、公共交通に関する市民意識の醸成を図る。

具体的には、現在継続して取組んでいる公共交通かわら版の充実や、新たな取組として、Nーバス路線再編における市民ワークショップの開催や公共交通に関するシンポジウムの開催を行う。



⑤アピールポイント(特に工夫した点)

市民との協働事業

(1) Nーバスの路線再編における市民ワークショップの開催

- 「みんなで公共交通を育む」という第2次地域公共交通総合連携計画での方向性を踏まえて、計画段階から市民とともに検討していくため、市民参加の方法としてワークショップを立ち上げた。
- このワークショップでは、今後5年、10年先を見据えたNーバスのあり方について市民と協働で考えることを主テーマとして、公共交通の利用促進を図るための情報発信と市民と共に支える仕組みの土台を築く第一歩とするために開催するものとして位置付けた。
- 平成26年度内に4回実施開催し、直近の路線見直しにも市民意見として反映することとした。

(2) 公共交通に関するシンポジウムの開催

- 第2次地域公共交通総合連携計画を踏まえ、「これからの公共交通はみんなで育む」という意識の醸成と、今後の取り組みへの参加を促すため、本市で初めての取り組みとして開催する。
- 来場者参加型のプログラムとし、参加者が楽しみながら、地域公共交通会議の取組みを伝え、地域の公共交通をみんなで育んでいくための意識の醸成を図る。また、市民に必要なとされる地域公共交通を目指すため、まずは地域公共交通に対する市民の声を集める取組を行う。また、将来的には地域の公共交通について考えて、市民参加型の利用促進活動につなげる場としての定着を目指す。